



夏草がいっぱい!

各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会 通 信

黄色い飛行船 第14号

2016年 8月24日

夏草やつわものどもの夢の跡!

残暑厳しき折ですが、夏が終わろうとしています。8月上旬まで、栄華を誇っていた夏草、ヒメシバやヤブカラシ、センダングサ（別名クツキソウ）カタバミ、ハキダメソウ等が畑や土手などに覆いかぶさっていましたが、花を咲かせ、種子をつけ始めると成長は峠を迎えます。近年、土手はブロック塀に、畑は分譲住宅に変貌しましたので、長閑（のどか）な景観は様変わりです。

上記の俳句は、1689年頃、俳人松尾芭蕉が綴った「奥の細道」にある「松島や ああ松島松島や」と共に有名な一句です。奥州藤原四代（藤原清衡、基衡、秀衡、泰衡）の栄華を誇った平泉の跡を詠んだもので、鴨長明「方丈記」の「行く川の流れば絶えずして～」と共に栄華や繁栄も永くは続かないのを暗示する一句です。

そして、例年の通り、今月15日は終戦記念日でした。

71年前猛暑の夏の日に300万人以上の戦死者、戦没者、被災者を生み出して太平洋戦争が終わりました。私は昭和21年生まれのため目撃などをしていませんが、祖母や父母から、近隣で戦死した人のことや空襲、防火訓練の話は聞いておりました。

近隣の山には防空壕の跡も残されており、入って遊んだりし、藤沢の本部の裏山にも3カ所ほど残っています。

15日の朝日新聞朝刊「朝日歌壇」に次の投稿歌がありました。

「死ぬ側で無残に戦死せし人を死なない側の方が称える」（群馬県 小倉太郎）

私は短歌は作りませんが、短歌集を買ったり、歌壇の動向や投稿歌を読んだりします。上記の歌は心情に「グサリ」とくる黒光りするような一太刀で、圧巻極まりない心象風景が見ることが出来ました。何か今の安倍政権を頂点とする政治状況を象徴するようで、長文の論説より波紋が大きく感じられるものでした。

法人全体としてもこうした事象に関心を持ち続け、現状に浮かれたり、自己満足することなく、現代社会を担った人々を敬い、無念の中に没して人々に思いを込めて、これからも努力をしたいと考えます。職員の皆さんも是非関心と力を寄せてください。

以 上